
二度埋め

川崎ゆきお

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

二度埋め

【Nコード】

N6738N

【作者名】

川崎ゆきお

【あらすじ】

不思議な気配を感じる人がいるようだ。

不思議な気配を感じる人がいるようだ。

そして不思議な場所があるものだ。

その場所は交通事故が多く、路肩に献花が絶えないほどだ。

住宅地の中のありふれた道で、小学校の通学路にもなっている。

その場所は見晴らしもよく、交差点でもない。

靈感のある人は、そこを通過する時、寒気がすると言う。それは大げさだが、数度温度が低くなるのだろう。

霊感情報で、ここは危ないので通学路を変更すべきだとは言い出せない。学校側も書類が作れないだろう。

しかし、散歩中の犬が急に通行人に吠えかかり、児童が噛まれそうになった。その時も犬が原因であり、霊的なものだと解釈されなかった。そういう霊スポットとして有名ではなかったし、そうだととしても、原因にはならない。

ややこしい場所だとは立ち番も知っており、登下校時には必ず誰かが立っていた。

原因がどうあれ、交通事故が起こりやすい場所であることは事実なのだ。

歩道や路肩を走る自転車の転倒も多い。当然子供もよくそこでこける。

保護者の一人が妙な女の子を見た。

「今の子供じゃないよ」

同じように妙なものを感じていた近所の人も、同調し始めた。そして、妙な存在が原因ではないかということ、何とかしようと調べ始めた。

この町内に昔から住んでいる人はいない。住宅地となったのは二十年前ほど前だ。それまでは農地だった。

かなり離れた場所に農家だった人の家がある。保護者の一人が、

そこから聞き出した。

あの道は池の堤があつた場所らしい。農業用の溜め池で江戸時代にできたようだ。

保護者が見た妙な女の子は着物を着ていた。

元農家の老人はそれ以上話したがらないようで、女の子のことを聞き出せなかった。

保護者は市に問い合わせたが、溜め池があつたことぐらの情報しか持っていない。

しかし、郷土史家のお爺さんを紹介してくれた。

「やっと言い出しましたな」

お爺さんは着物を着た女の子のことを知っていた。

溜め池を掘る時の人柱になった少女で、埋めた場所があゝの位置だということだった。地蔵さんが立っていたが、池を埋め立てた時、一所に埋められたらしい。

保護者たちの働きかけで、新しい地蔵がすぐにできた。

了

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6738n/>

二度埋め

2010年10月9日18時38分発行